



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 **白駒妃登美**

まさに今、放送中のNHK連続テレビ小説「あさが来た」。視聴率も上々のようで、注目が集まっていますね。そんな朝ドラの主人公「白岡あさ」のモデルとなった人物が、今回ご紹介する広岡浅子です。

ドラマをご覧になっていない方のために簡単に解説すると、浅子が誕生したのは嘉永二年、明治維新の二十年ほど前です。

彼女は京都の商家に生まれ、十七歳の時に大阪の両替商(現代でいう銀行)の次男と結婚。その後、幾多の困難に遭遇しながらも、事業家としての才能を発揮して、今も営業を続ける大同生命保険の設立や、日本の女子教育の先がけとなった日本女子大学の設立に深く関わります。

### ＊「九転十起生」の人生

## ピンチのたびに成長するコツ

### — 明治日本の女性実業家・広岡浅子

江戸・明治・大正という激動の時代を全力で駆け抜け、七十一年の生涯に幕を閉じた広岡浅子。「七転び八起き」を超える「九転十起生」を座右の銘とした彼女は、どんな人生を送ったのでしょうか。

彼女の生涯をあらためて垣間見ると、私が注目したいのは、彼女が襲いかかるピンチや自分の弱点に対し、正面から向き合い、すべてを成長の糧にしている点です。

### ＊天からのプレゼント

例えば、浅子が両替商「加島屋」を営む広岡家に嫁いで間もなく、一家の大黒柱である義父が亡くなります。それだけでも大きな激震ですが、世間では明治維新という社会変革が起こります。

当時三百ほどあった大名家のうち、加島



広岡浅子 明治期の実業家。京都の商家に生まれる。大阪の両替商に嫁いだ後、炭鉱事業や生命保険事業、大学運営に尽力。晩年は女子教育の普及に力を注いだ。一女の母。

【イメージイラスト】アオジマイコ